

AFPYだより

第 8 号

H28.2.17

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

山口県教育庁 義務教育課
社会教育・文化財課

豊かな体験

豊かな体験（自然体験・生活体験等）は子どもたちのよりよい成長にとって不可欠なものです。このことは、国や多くの研究者等の調査によって報告されています。

さらに、体験活動を充実させることは、学校現場においても重視されており、学習指導要領でもその必要性が明記されています。

ふりかえりの場の設定

皆さんは体験活動に取り組んだ後、子どもたちにどのような支援をされていますか。五感を通じた体験は子どもたちにとって魅力的です。しかし、そこに学びがなければ、「活動を体験しただけ」になってしまいます。大切なのは、**体験を通して学び、学んだことを整理し、各自の知恵につなげる**ことです。

そのために必要なのは「**ふりかえり**」の場です。

ふりかえり

AFPYで取り組むアクティビティでは、多くの場合、共に活動(体験)した仲間とのふりかえりを行います。その場では、自分の言葉を聞いてくれる相手がいて、その相手から応答があると、子どもたちはより深く自分自身をふりかえる機会を得ることができます。この相互の関係がその場にいる全員に生まれると、一つの体験を通して一人ひとりでは思っていなかったこと、気付いていなかったこと、考えたことも思ったこともなかったようなことなどが様々に表出してきます。表出されてきたものが全員に共有できるまで話し合うことでさらに学びが深まります。

ふりかえりとは、体験を通じた学びを全員で共有し、知恵につなげていく活動とも言えます。ふりかえりを促進するには「**体験を共有した仲間が同じ場にいること**」が重要です。

学びをこれからの知恵に

一年間の学級生活をふりかえる時期になりました。子どもたちはこれまで他者とかかわり合う活動に継続的に取り組み、個人やクラスの成長につながる様々な学びを得てきたことと思います。

クラスのみinnで学びを整理し、これからの知恵につなげてみませんか？



～社会教育・文化財課のHPで、「心の冒険・サマースクール」「AFPY」の取組をご紹介します。～

学級で大切にしてきたことをふりかえり、自分や仲間の良さ・成長を感じよう。

『 協カパズル 』			
教科・領域等	特別活動（学級活動）	時間	40分程度
準備物	パズルのピース、お手玉、ストップウォッチ		
活動の実際 ※留意点	<p>～あらかじめ、学級で大切にしているキーワードや今後子どもたちに意識させたいことなどを書いた紙をいろいろな大きさ・形のピースに切り分けておく。～</p> <p>①パズルのピースを1人1つずつ持つ。</p> <p>②各自のピースを合わせながら、パズルを完成させる。 (子どもたちの実態や目的に合わせて活動のバリエーションを工夫する。)</p> <p>(例) ○ 完成イメージを知り、仲間と話し合いながら取り組む。 ○ 全員が言葉を発せず、静かに取り組む。 ○ 制限時間を決めて取り組む。 ○ 頭の上にお手玉をのせて歩きながらパズルを完成させる。お手玉が落ちたらその場から動けない。誰かにお手玉をのせてもらったら再び動ける。</p> <p>③活動をふりかえりながら、その時の気持ちやパズルに書かれたキーワードに関する自分の思いや考えなど紹介し合う。</p>		
ふりかえり	<p>○自分のピースを置くとき、どんなことがあった？どんなことを感じた？</p> <p>○パズルに書かれていることを意識・実践できていた？</p> <p>○「4月の自分やクラス」と「今の自分やクラス」のちがいは何？</p>		
継続的な活用	<p>・年間を通じて同じアクティビティに複数回取り組み、学級目標などに照らしたふりかえりを行い、仲間との挑戦やキーワードの相互理解への意識につなげる。</p> <p>・日常生活や具体的な学習と結び付けて、活動の意味を考えさせるヒントにする。 (共同制作の版面に取り組む時の意欲付けとなった。)</p>		
子どもたちの感想や変容、等	<p>・今のみんなでなら絶対にできると思った。</p> <p>・落ちたお手玉を友だちの頭にのせてあげる時、仲間の役に立つ自分を感じた。</p> <p>・みんなのことをよく見て、お手玉が落ちたらすぐに拾ってのせてあげるところがこのクラスのいいところ。</p> <p>・自分ができることを精いっぱいみんなのためにしたいという気持ちに改めて気付いた。</p> <p>・相手が伝えたいことを読み取ろうとすることが大切だと思う。</p>		
実践者からのひとこと	<p>年間を通じて同じアクティビティに取り組むことで、自分やクラスの具体的な変容（成長）を知ることができます。良い学級になるように自分たちで工夫してきたことや、お互いの変容に気づき、それぞれの良さを認め合えるようにしたいものです。そして、これまでに蓄えた力で、新しい学年のスタートへ自信をもてるように、前向きな声かけをしていきたいと考えています。</p>		

(宇部市立船木小学校 藤富 佳子先生による実践)

